アマンダの詩集

アマンダの人生を讃え
彼女が詩に託した
メッセージを
あなたにも

試練の 時、勇気、希望
そして信仰の喜びを
与えてくれる、心に響く詩の数々

見ることによってではなく 信じることによって、
これを事実と認めているのです。

（コリント人への手紙第二5章7節）



次頁以降に記載の詩には、アマンダの
さまざまな感情が表現されています。
彼女の言葉からは、神との関係によって
苦難の 時を乗り越え、きわめて過酷な
状況にあっても感謝する気持ちを
育めるようになったことが伝わってきます。
アマンダは、信仰によって彼女が
どのように力づけられたかの証として
自分の詩が出版され、人々の手元に
届けられることを望んでいました。
これはそんなアマンダのメッセージです。

目次

1　アマンダの人生を讃えて

5　小さなもの
アマンダは人生のささいな出来事に感謝することを学びました。

7　打ち砕かれた恵み
いくつもの試練を通して、アマンダは神の臨在を実感し、彼女の信仰はますます強くなりました。

8　思いがけない恵み
過去を手放し、神がご計画なさった未来を受け入れ、いつも主イエスを見つめるようになるうちに、アマンダは自分の人生が永久に変わったことを知りました。

9　楽しい日
治療中に、彼女は「…より良い日を思うことが単なる考えではなくなる まで」と書いています。

11　私が望む答えではなく
検査でがんの再発が分かった後で、アマンダはこの詩を書きました。

12　信心深く耐えていく
この詩で、アマンダは自分の人生に与えられた神のご計画に、完全に身をゆだねます。

13　忙しさの中で
不安に振り回されないように、アマンダは日々のお祈りに時間を捧げました。

14　破られなかった約束
アマンダのガン再発を恐れる医師たちをよそに、アマンダに恋をしたアーロン・ディエッパは彼女との結婚を固く決意。2003年11月15日に行われた美しい結婚式で、彼女はアマンダ・ディエッパになりました。

15　剥ぎ取られて
結婚してから3か月後、がん再発の知らせに大きく動揺するアマンダ。それでもなお、主イエスへの信仰とぴったり寄り添うアーロンとともに、彼女は毅然として試練に立ち向かったのでした。

16　溢れた杯
長年のがんとの闘いはアマンダに大きな負担となり、彼女の体は弱って今にも壊れそうです。それでも彼女は神を信じ、信頼し、神によって彼女の杯があふれる日を待ち続けます。

17　心に従う
この詩で、アマンダはキリストのために攻めに転じ、なぜ人は神のかたちをした心の穴を神以外のあらゆるもので埋めようとするのかと、疑問を投げかけます。

18 祈りを捧げる
アマンダが自分の人生を神のご計画にゆだねる時、神はアマンダを忍耐強く見守っておられます。

19 絶望の瞬間
6年間ものがんとの闘いを経て、絶望と悲しみに打ちひしがれたアマンダの心。しかし、この人生は終わりではないという、神がお与えくださる永遠の希望とお約束に癒されます。

20 知らせの時
アマンダは、感謝の気持ち、愛される喜び、充実、そして安らぎを胸に、主が約束を守ってくださるのを待っています…すぐにそれに応える準備をして。

21 目を開かせてください
アマンダは、神からスピリチュアルな視覚を授かり、神が自分の人生のためにお立てになったご計画をこの目で見ることができるようにと祈り す。

23 静かに満ち足りて
アマンダは、神が自分の人生にお与え くださった目的を理解し始め、神のご計画に従って生きようと懸命になる中で、彼女の心を落ち着かせる充実感について書いています。

24 一時の試練
アマンダの信仰は、人生の嵐の中での神との出会いを通して成長し続けます。

25 消えること のない希望
治癒のための選択肢がなくなってきていることを知りつつも、アマンダは前に進み、たとえ死に向かっていようとも最後まで神を賛美することを誓います。

26 永遠の重荷
これはアマンダが落ち込んだ日の詩で、がんがまだ増殖していることが検査で明らかになった後に書かれています。

27 かけらを拾う
アマンダの人生は三日前に分かったがんの再発によって打ち砕かれました。彼女は壊れた心のかけらを少しずつ拾い集め、人生を元に戻そうとしていました。そんなアマンダの詩を読むのはとても辛く、家族は次の三つの励ましの詩で応えました。

28 かけらは置いて
ローラはアマンダを慰めて応援するためにこの詩を書きました。

29 神さま?
リサは、がんばって生きてほしいという自分の思いを伝えることでアマンダを 慰めるためにこの詩を書きましたが、 天国がアマンダを待っていることも 分かっていました。アマンダを失うこと がさだめなら、リサは悲嘆にくれながらもそれを受け入れようとしました。

31　導きによって
アマンダのお父さんは、アマンダを慰め、彼女に神の永遠のご計画を信頼するようにすすめることで死への恐れを取り除くためにこの詩を書きました。

32　あなたの掌
病気が治ってこれからの人生を歩んでいけるのだと思っていたアマンダは、実際には自分の運命は神の掌中にあり、振り出しに戻ったのだと悟ります。

33　今はまだ
必要なのは神の愛と恩寵のみであることを知ったアマンダは、生き延びようという強い意志を持つ一方で、神の思し召しと自分の人生のためになされたご計画に身をゆだねようという強い意欲も持っていました。

34　まだ待っているのです
アマンダはまだ、彼女を天国へ連れていってくれる天使の迎えを待っていました。アマンダはこの詩を書いた一か月後に亡くなり、神は彼女の祈りにお応えになりました。

35　姉妹の愛
この詩は、一度も愛したことがないよりも、愛することを知ってそれを失うほうがいいと言っています。この結婚式の写真に写っているのは、アマンダと彼女の双子の妹たち（リサとローラ）です。

36　あきらめない
ミネソタ州ロチェスター市にあるメイヨー・クリニックでの治療中、アマンダは合併症を発症します。お父さんは、彼女の意気を高揚させ、カリフォルニアへの帰りのフライトに耐えるだけの力を与えようとしてこの詩を書きました。

37　運命に導かれて
アマンダのお父さんが書いたこの詩は、この人生は終わりではないということ、そして息を引き取った後にどこへ行くのかに集中するべきだということを彼女に再認識させます。

38　神なくしてがんを理解する
アマンダは、がんのために自分が失ったすべてのことについて書きました。
（世俗的な視点）

39　神とともにがんを経験する
アマンダは、がんのおかげで自分が得たすべてのことについて書きました。（永遠の視点）

アマンダの人生を讃えて

ここにご紹介するのは、アマンダの父であるトムが彼女の追悼式で読み上げた 言葉です。

この数日、私はアマンダの思い出をどのように追悼しようかと苦悩しました。私を導いてくださるように神に祈りましたが、今日のような日のための支度を誰ができるでしょうか。一生の思い出を、どうしてわずか数分で語ることができるでしょう？ 愛しい私たちの娘アマンダを知っていただくには、寝る前に読んでやった本から、初めて乳歯が抜けたときのこと、サッカーの試合、「Spelling Bee」の英単語綴りコンテスト、卒業式、そして彼女の結婚式までについて語ることもできますし、神に対するあの子の驚くべき信仰心について語ることもできます。そして結局、私はその両方を皆さんにお話しすることに決めました。

アマンダはよく、詩によって彼女の魂やむき出しの感情を紙に書き出しました。アマンダに敬意を表して、あの子ががんの告知を受けた直後、16歳の時に書いた最初の詩を読むことから始めたいと思います。その題名は「小さなもの」です。

夜、目を閉じて
夢の一つ一つを思い出してみたことがある？
小さな光を見つめたくて
父の目をただ見つめたことはある？

海岸を散歩していて足先がやわらかな砂に埋もれ
愛する人の微笑みを
その鼻の小さな皺まではっきりと思い出す
そんな経験をしたことがある？

あなたの心に潜む光が
にわかに閃き、明るく輝いて
自分の掌の細かい皺のひとつひとつの上をたどる
そう感じたことがある？

お母さんが夜、布団をしっかりとかけてくれる
その優しい手触り
主よ、その小さなものの一つ一つ全てを
友達を、命を、そして見る事ができることを
感謝いたします

私たちは今日、私たちの娘のアマンダの人生を讃えるためにここに集まりました。よく、親は子供より長生きするものではなく、子供の葬儀は親として最も耐え難いことのひとつだと言われます。ですが、23年間の人生の後、アマンダは、今日は葬儀ではなく、祝福の時―― 彼女の人生を讃える日、そして何より大切なのは、イエス・キリストによってあの子が死を克服したことを祝う日――であると私たちに教えてくれたのです。

アマンダは1982年6月10日にカリフォルニア州のニューポート・ビーチで生まれました。あの子が生まれたあの日、リンダと私は、私たちが歩み始めることになる長い道のりについて、また、私たちの人生がどれほど永久に変わることになるかについて、知る由もありませんでした。アマンダは4人きょうだいの一番上で、幼いときからパパっ子でした。リンダは少し嫉妬していましたが、車のチャイルドシートに座れるようになったアマンダは、どこへでも私と一緒に出かけました。そして私たち二人はいつも一緒だったために、彼女は幼くしてピックアップトラックやカントリーミュージックが好きになりました。

毎朝、ガレージのドアが開く音がするとすぐにベッドから飛び起きて窓際に駆け寄り、仕事に行く私に手を振ってくれたあの子の姿は決して忘れません。あの子はそれを一日として欠かしませんでした。私たちはとても仲良しで、毎日仕事から戻って一緒に時間を過ごすことが待ちきれなかったことを思い出します。あの子は私の小さな「シェル・ベル」（ミドルネーム「ミッシェル」にちなんだニックネーム）でした。学校の先生との懇談会、リサイタル、授賞式、サッカーの試合やその他の行事など、どれも欠かしたことがありません。私は「ミスター・ママ」で、胸を張ってそれを自慢していました。あの子は私のかわいいシュガー・プラム、私はあの子のサワー・ピーチだったのです。

アマンダが子供だった頃のなつかしい思い出は実にたくさんありますが、私は自分の心に永久に刻まれるであろう日付も覚えています。それは1998年11月10日で、アマンダは16歳でした。その日、親として決して聞きたくはない4つの言葉、「Your daughter has cancer」（娘さんはがんです）を聞かされたのです。

家族全員にとってそれは衝撃的な知らせだったのですが、アマンダは頑張り屋でしたし、何よりも、神とイエス・キリストを驚くほど強く信仰していました。これはアマンダの母親から受けた恩恵です。この悪い知らせの後にあの子を家に連れて帰り、それから予定される治療について話した時のことを私は覚えています。アマンダは「パパは何でも直してくれる」と知っていましたから、恐れてはいませんでした。

ある日の夕方、二人で散歩に出かけた折に、あの子は私を見つめて言いました。「こんなに若いときにがんになってよかった」と。その言葉にびっくりする私に彼女はこう説明してくれました。「がんになって目が覚めたから、私の人生がはっきり見えるようになったの。これまでは、どんな服を着ようかとか、どんな車を運転しようかとか、そんなことで頭がいっぱいだったけど、今はそのどれもが大切なこととは思えない。ほんの少しであっても自分の人生の時間をネガティブな思いに費やしたくないの。ほとんどの人は老人になるまで生きてもこのことを一生知らないままでいる。でも私は16歳でそれがわかって、これから続く人生でずっと、別の生き方をするんだもの。」これが私のアマンダです。私たちは大抵、親が子を導くと考えます。しかしその時点からは、アマンダが私を導いてくれたのでした。

彼女が書いた詩は、がんとの7年間の闘病中に得た彼女の絶え間ない成長を示しています。あの子の信仰心は何度も試され、その度に力を増しました。アマンダは、自分がいつも信仰者として思い出されることを願い、決して同情を引こうとはしませんでした。彼女は自分が神よって、神がお選びになった方法で使われることを望んでいました。たとえそれが闘病中に自分がいかに神の力を支えにしたかを人々に示すことを意味したとしても。

アマンダは私に「受け身のクリスチャンにはなりたくない」と告げ、毎日聖書を読み、彼女が言うところの次なる段階の信仰へと到達するために、書籍、祈り、聖書研究で学習を補いました。

ここで彼女の詩のひとつを読み上げたいと思いますが、これにはアマンダの人柄、そして彼女が何を信じていたかが表れています。ある意味で、これは挑戦的な信仰の詩であり、アマンダはキリストのために攻めに転じます。タイトルは「心に従い生きる」です。

あなたは目標もなくただ待っているだけ
人生が過ぎる事に身を任せ
あなたは私の神とあなたの神は違うと言う
どうしてそう言えるの？

あなたは私の信仰を小さな支えだと言う
そんなのにだまされないわ、
あなたにはいつも触れられる証拠が必要なのね

神など存在しないという人もいる
そんな思いで毎日過ごせば
やがてはそれが自我に代わり
自分だけが良ければいいと思うようになる

あなたは虚しさに
自分の心が引き裂かれているのを感じながらも
自分はかわいそうな人間だと思い込み
自分勝手な誇りに動かされている

意味のないやがてなくなるものばかりに時間とお金を使い
身を捧げることを拒む
だってこれまで傷ついて来たから
神を認めることを拒み
私の信仰をあざ笑う
あなたが自分の知性に頼って生きる間
私は喜びに溢れた心にそって生きる

私の信仰は力ある証
あなたの信仰は身勝手で、塀に囲まれている
あなたは砂の上に自分の人生を建て
私は永遠の岩に家を建てる

あなたは自分の知性に頼り
自分勝手な魂に溺れる
物事を神以外のものになぞらえ
形式だけで神を考える

貴重な時間を無駄にするのは止めて
目的もなく盲目で
誇りの牢獄から逃れて
そうすれば神様は否定できない証拠をくださる
そうすればもう一人じゃない

2004年3月24日

多くの方々が、アマンダとあの子が生きた人生の過酷さに心を痛めてくださっています。私はよく、もしアマンダが病気になっていなければどんな人生だっただろうかと思いを巡らせます。でもあの子は、神さま、家族、友人たち、そして愛する夫アーロンへの愛に満ちた人生をとてもいとおしく思っていました。あの子の人生のクオリティは生きた年数ではなく、それらの年月で達成したことによって測られたのです。私たちは皆、自分の人生が誰かに違いをもたらしたかどうかと考えてみるかもしれません。その観点からは、アマンダはとても多くを成し遂げ、長生きする多くの人が行うよりも、もっと多くの人の人生に違いをもたらしたのです。

彼女の最初の診断から亡くなる日まで、神は私たちにアマンダとの貴重な7年間を授けてくださいました。そのことに私は永遠に感謝します。その間、私たちは高校の卒業式や18歳、21歳の誕生日を祝ったり、あの子の結婚式でバージンロードを一緒に歩いたりすることができました。それらは私が生涯大切にするかけがえのない思い出です。

亡くなる前に、アマンダは、自分がたとえ一人の人でも神に向かせる手助けができたなら、この痛みと苦しみの7年間には十分価値があったと言いました。あの子が私を神に向かせてくれ、彼女のおかげで、私はより良い人間――そしてより良いクリスチャンになりたい思うようになったのだと皆さんにお話しすることができます。これはあの子が残してくれた遺産のひとつであり、私の残りの人生の中に存在し続けます。

アマンダの遺言には次のような希望が記されていました。
- 追悼式で「How They Remember You」の曲を流してほしい。
- 私のことを忘れないでほしい。
- 他の人を元気づけ、信仰による私の強さの源を示してあげるために、私の詩を出版して無料で配ってほしい。
- 何年もの間私を助けてくれた、職場の人たちと私の家族の全員にお礼を言いたい。みんなのサポートを常にありがたく思っているということを知っておいてもらいたい。
- 私がそうしたように、家族と友人たちにイエス・キリストを受け入れてもらいたい。そうすれば私がみんなと天国で会えるから。

天国で神さまがアマンダを抱きしめ、「善良で忠実な僕よ、よくやったね」と仰せになるお姿が、私には想像できます。

アマンダ、いなくなって寂しいよ
心の中でこれからもずっと愛し続けているからね。

お父さんより



小さなもの

夜、目を閉じて
夢の一つ一つを思い出してみたことがある？
小さな光を見つめたくて
父の目をただ見つめたことはある？

海岸を散歩していて足先がやわらかな砂に埋もれ
愛する人の微笑みを
その鼻の小さな皺まではっきりと思い出す
そんな経験をしたことがある？

あなたの心に潜む光が
にわかに閃き、明るく輝いて
自分の掌の細かい皺のひとつひとつの上をたどる
そう感じたことがある？

お母さんが夜、布団をしっかりとかけてくれる
その優しい手触り
主よ、その小さなものの一つ一つ全てを
友達を、命を、そして見る事ができることを
感謝いたします

1999年
アマンダ・トゥエルマン





イエスはそれをとどめて、「子どもたちを自由に来させなさい。止めてはいけません。天国は、この子たちのような者の国なのですから」と言われました。**（マタイの福音書19章14節）**

打ち砕かれた恵み

心地良い自分の人生に満足し
自分のやり方で生きるのが
当たり前
そう思って毎日を過ごしてきた

私の人生は平凡だった
主よ、私は立ちすくみ
ただ人生を過ごしていた
あなたの正しいご意志を無視して

あの暗く、静まった日
全てが粉々に砕かれた
主よ、涙が止まりません
どうか全てを取り去らないで

毎日答えを待ち続けていた
問いだけがぐるぐると駆け巡り
あなたは答えをくださっていたのに
主よ、私はあまりにも盲目でした

完全な暗闇の中
主はいつも近くにいてくださった
愛する子よ、私は呼び続けている　と
主よ、私は耳を傾けなかった

私はゆっくりと溺れていき
毎晩涙を流した
主よ、あなたの強さを私にください
主に私の声は届いているのだろうか？

その時主は、私の手を取り
立ち上がらせてくださった
背中の埃を払いながら
希望と、私に欠けていた信仰で
満たしてくださった

主よ、日に日に厳しくなるばかりです
逃げ出せればどんなにいいか
でも主は、私の横にいてくださる
だから留まる勇気がもらえる

主よ、あなたに跪きます
あなたは私の名前を呼び、
私に新しい命をくださった
もう決して今までの私じゃない

あなたは私の心に火を点け
そしてあなたの愛で私を救い出してくださった
あなたの愛はまるで洪水のよう
主よ、今、あなたの顔がはっきりと見えます

2002年6月
アマンダ・トゥエルマン



主よ。あなたは私の心の奥底まで探り、どんなささいなことも見のがされません。**（詩篇139篇1節）**

思いがけない恵み

私を創られた方と向き合う
私の目は大きく見開かれている
新しくなった私の体の一部に命が宿る
でも死んでしまったものは？

今までどう感じてきたかを知っているから
心の中で苦しむ
ゆっくりと踏み出して、息を止めて
自分が後ろに置いてきたものを振り返る

みんなが私を見ている
この子はどうするのだろうと思いながら
私はためならいながら
神様に新しい生き方を差し出され、今までの生き方を捨てる

新しい自分は、強くて、喜びに満ちて、今までもよりも大人
こんな自分、想像もしていなかった
もう後ろは振り返らない
少なくともそう思えた

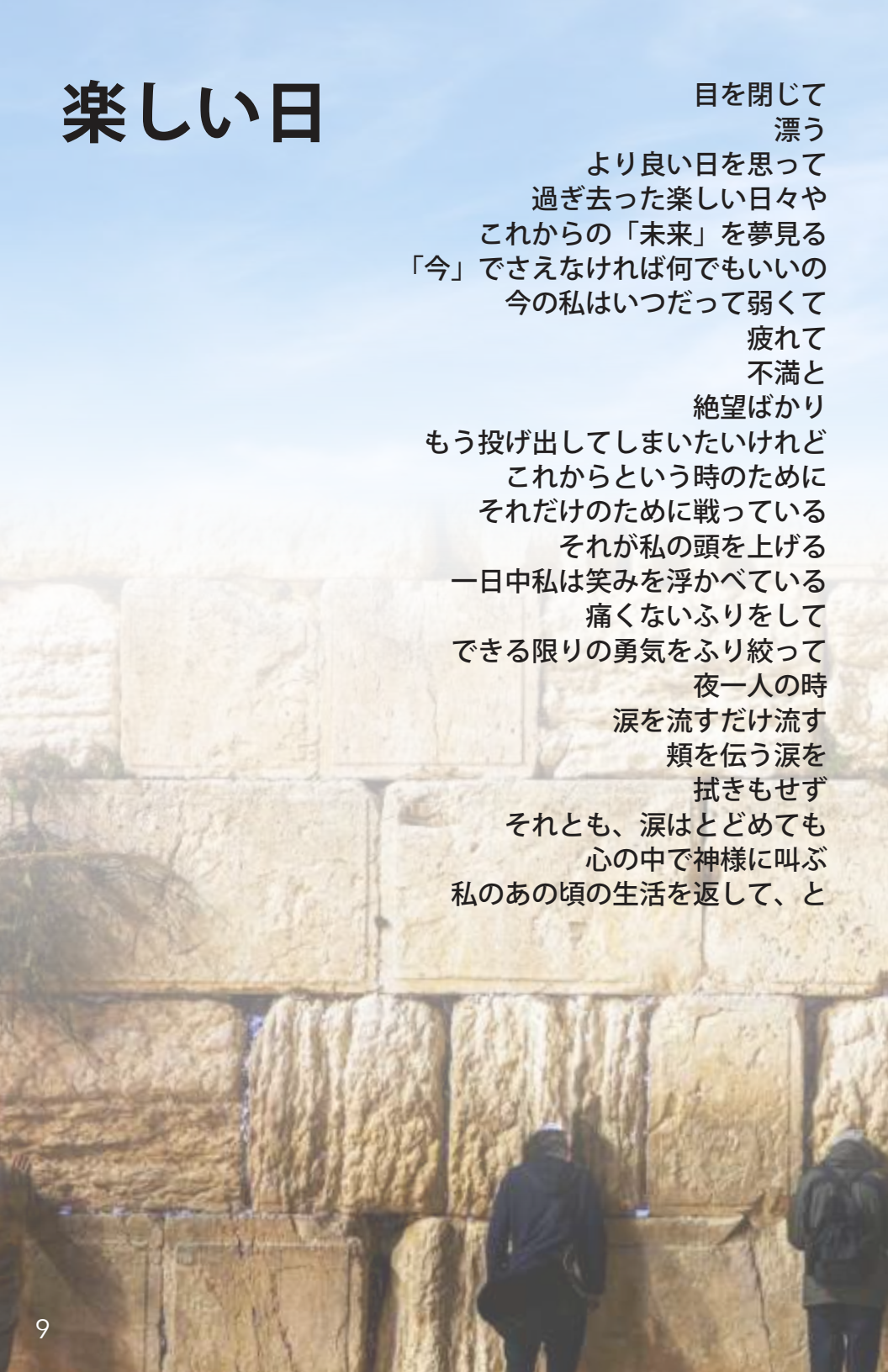
時折、楽しかった古い日々が懐かしくなる
子供のような無邪気さは失われてしまった
でも主はそれを平安な信仰に置き換えてくださった
それだけの価値があることをご存じだから

だからこの世界で溺れて
楽な方へと目を向けてしまいそうになったら
それに背を向けて目を上げるの
褒められたいと思う唯一の人に向かって

2002年11月29日　アマンダ・トゥエルマン

楽しい日

目を閉じて
漂う
より良い日を思って
過ぎ去った楽しい日々や
これからの「未来」を夢見る
「今」でさえなければ何でもいいの
今の私はいつだって弱くて
疲れて
不満と
絶望ばかり
もう投げ出してしまいたいけれど
これからという時のために
それだけのために戦っている
それが私の頭を上げる
一日中私は笑みを浮かべている
痛くないふりをして
できる限りの勇気をふり絞って
夜一人の時
涙を流すだけ流す
頬を伝う涙を
拭きもせず
それとも、涙はとどめても
心の中で神様に叫ぶ
私のあの頃の生活を返して、と





誰もがわたしを助けようとしてくれる
手をとろうと
でも誰にも分かるわけがない
どんな気持ちか
髪の毛が全部抜けて
こんな醜い自分
自分の体が自分のものじゃないみたい
これからの計画も立てられない
力が出ない
生きている気がしない
心臓が痛い
もう涙さえ出ない
大嫌い
こんなことをされて
私に
私の家族に
私の魂の友達に
私の友達に
お願いだからもう終わりにさせて
お願いだから取り去って
主よ、私に力をください
私の傍を離れないで
良い一日が
ただの一日でなくなる日まで

2002年12月29日
アマンダ・トゥエルマン

私が望む答えではなく

毎晩ひざまずいて
同じ祈りを何度もした
一つの答えだけを望んで
待つのは耐えられなかった

ついにあなたは答えを下さった
あまりにも明白で否定できない答え
主よ、それは私が望んでいたものではなく
まず私を満たしたのは恐れだった

一瞬の悲しみの後に
疑いとともに止めどなく涙が溢れた
主よ、あなたの考えは何ですか？
助けてくださると確信していたのに

すると主は優しく語りかけ
その完璧なご遺志を明かしてくださった
絶えることのない私の弱さがあの方の力に光を照らす
言葉を飲んで私はただ立ちすくむ

毎朝目を覚ますと
大きな微笑みを浮かべる
私には明日のことは全然わからない
でもわかっている　あの方の恵みが

だから信仰を決して失わない
耐えることを教えてくださったから
試練の中でも喜びが溢れている
栄光の日に
全ての涙をぬぐってくださる事を知っているから

2003年1月16日
アマンダ・トゥエルマン

いや、治すまい。しかし、わたしはあなたと共にいる。それで十分ではないか。わたしの力は弱い人にこそ、最もよく現れるのだから。
（コリント人への手紙第二5章7節）

信心深く耐えていく



疲れきり、心が打ち砕かれた時
嵐が押し寄せる時
祈りに満ちた忍耐を求めて
わたしの信仰はすっかり疲れてすり切れている

頭を上げることもできない
出口が更に遠ざかっていない？
沈黙を貫く天国を
私の目は疑いをもって見上げる
でも私の唇は祈る事を止めない

あの方の目的のために形作られていく中で
私の信仰から不純物が消えてゆく
いつしか、暗い雲の間から
豊かな銀色の筋が現れる

もう未来なんか怖くない
自分ではどうしようもできないことにも
永遠に続いていくものに目を向ける
私の魂に

そしてついに
私が長い間祈り続けた
求めていた答えが聞こえた
私は言葉を失い、ただ立ち尽くしていた
光を浴びながら

私は天国を見上げ
不安ではなく、感謝の気持ちに溢れ
ひざまずいた
主が私を恐ろしいほどに
美しくしてくださったことを知ったから

特権のある人生を生きる
突然全てがつながった
あの方の導きを待つ
甘い驚きに笑みを浮かべながら

2003年9月1日
アマンダ・トゥエルマン



忙しさの中で



毎朝目覚めてから
常に忙しくしているあなた
本当に感謝を捧げている？
祈る時間はある？

慌ただしく　山ほどすることがあっても
試練が来ても
祈る信仰があれば
不安に動かされることはない

これからのことで頭がいっぱい
今日この日を大切にすることを
忘れてしまったあなたへ
過去はもうなく　あなたは許されている
立ち止まり　深呼吸をして
そして祈りを捧げてみて

何も言わずあなた働き
その日を待ち続けている
良くやった、私の忠実なしもべよ…
主の言葉が聞こえるその日を

2003年9月18日
アマンダ・トゥエルマン

破られなかった約束

2003年アマンダ・トゥエルマン

何もかもがうまく行っている時は
毎日が完璧な時は
あなたをあがめるのは簡単
わたしの祈りは喜びに満ちている

そして段々とあなたを忘れて行く
「一人でできるわ」と
虚しさが忍び寄る
そして一人ぼっちだと思い出す

あなたはいつも
扉を叩いていたのに
私の心は受け入れなかった
他のことで心がいっぱいだったから
ストレスと身勝手な気持ちで

怠け者で頑固だから
自分の弱さを認めなかった
暗闇を彷徨っていたのに
あなたを求めなくてはいけなかったのに

自分の重荷を自分で負って
重過ぎて倒れて　つまずいた
重荷は私の顔に落ちた
謙虚になることを教えてくれた

人生の道が荒くて岩だらけになり
やりきれない日々になり
主に腹を立てた
なぜ私に試練を与えるの？と

その時、主との約束を思い出した
彼は約束を守ってくださっていた
私を決して見捨てないということを
でも私が堕ちないという約束はしなかった

主は炎の中を導いてくれる
試練に立ち向かう強さをくれる
一人では進めないたった１インチも
でもイエス様となら１マイルでも行ける

だから全てがうまくいかない時
そして一番暗い日に向かう時
愛と真心の方が私を支えてくださる
絶えず祈りを捧げよう



剥ぎ取られて

私は突然言葉も生きる意味も失った
人生はあんなにしっかりと完璧だったのに
希望が粉々になるまで
心は完全に打ち壊された

もう何も残されていないのかと
私の信仰は衝撃で震えた
恐怖と混乱に凍りつき
何もかもが剥ぎ取られ、見捨てられたと感じた

心の奥では本当のことがわかっている
あの方の愛がいつもそこにあることを
でも心のどこかでは失望し
人生って不公平じゃないのと叫ぶ

手本にならなくてはいけない　でもできない
目標からはもう完全に離れている
絶望で地面に倒れるばかり
暗闇に置き去りにされて

でも小さな信仰の光が
私の心に忍び込む
これまでの試練の中で少しずつ
絶えず不純物が取り去られた

奪われて裸にされて
手の中に残ったのは信仰だけ
それ以外何もいらないという喜び
競争を走り抜け、しっかりと立つために



2004年2月26日
アマンダ・トゥエルマン

溢れた杯

生きることに疲れてしまいました
主よ、もう諦めてはいけませんか
この痛みをどうか取り除いてください
どうか私の盃から全てを取り去ってください

魂の苦しみが
心の奥深く溜まり続け
涙の洪水を留め
泣くことさえ許しません

人間の弱い心が私を打ちのめしています
感情ばかりが沸き起こり何も目に入らない
どこまでも溺れてゆく
人生というあまりにも荒々しい海に

うわべだけ笑っている私の顔
その裏にあるものを無視して
私の心は絶望で今にも壊れそうなのに
どうしても勝てない戦いに

私のたった一つの希望である主よ、
どうかお助けください
今日も昨日も明日も同じ
私の内に潜む光を
悲しみの波で洗い流さないでください

私の信仰心は力を失い
勇気は全部使い果たしてしまいました
でも信じ、信頼し、待ちます
一つの道を…
主が私の杯を満たしてくださる日を



2004年3月3日
アマンダ・トゥエルマン

心に従う

2004年3月24日

あなたは目標もなくただ待っているだけ
人生が過ぎる事に身を任せ
あなたは私の神とあなたの神は違うと言う
どうしてそう言えるの？

あなたは私の信仰を小さな支えだと言う
そんなのにだまされないわ、
あなたにはいつも触れられる証拠が必要なのね

神など存在しないという人もいる
そんな思いで毎日過ごせば
やがてはそれが自我に代わり
自分だけが良ければいいと思うようになる

あなたは虚しさに
自分の心が引き裂かれているのを感じながらも
自分はかわいそうな人間だと思い込み
自分勝手な誇りに動かされている

意味のないやがてなくなるものばかりに時間とお金を使い
身を捧げることを拒む
だってこれまで傷ついて来たから

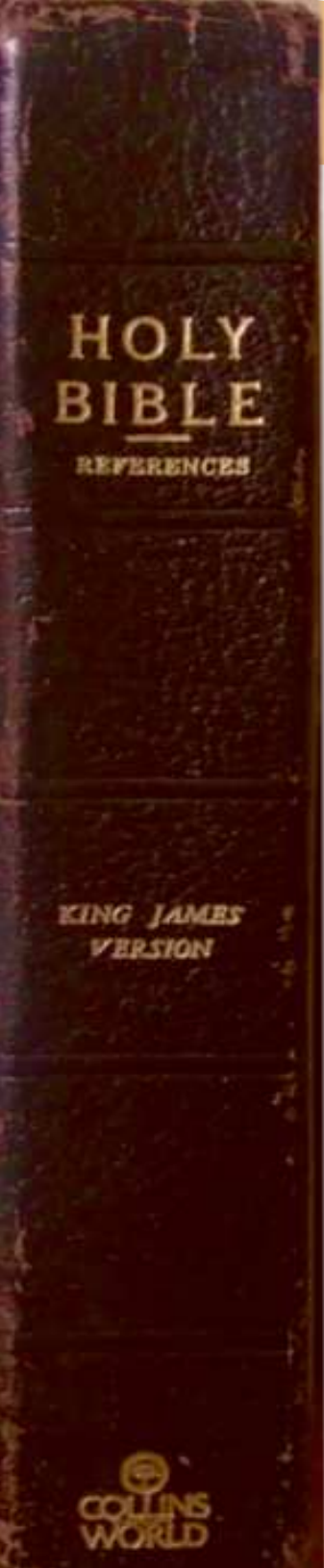


神を認めることを拒み
私の信仰をあざ笑う
あなたが自分の知性に頼って生きる間
私は喜びに溢れた心にそって生きる

私の信仰は力ある証
あなたの信仰は身勝手で、塀に囲まれている
あなたは砂の上に自分の人生を建て
私は永遠の岩に家を建てる

あなたは自分の知性に頼り
自分勝手な魂に溺れる
物事を神以外のものになぞらえ
形式だけで神を考える

貴重な時間を無駄にするのは止めて
目的もなく盲目で
誇りの牢獄から逃れて
そうすれば神様は否定できない証拠をくださる
そうすればもう一人じゃない



祈りを捧げる

はっきりと覚えている
もう何年も　何年も前
自分に足りないものがあることを認めて
私の人生を捧げた

全てを主にゆだね
主が気づかってくださると
その強さを信頼し
負い切れないすべての重荷をゆだねた

でも尊い眼差しから
いつの間にか離れ
私は、一度捧げたはずの
もう重過ぎる荷物を自分で負っていた

終わりの見えない中で
人生は難しく混乱するばかり
私は絶えず弱く、不完全で
自分にうんざりし、焦燥しきっている

でも主は慈しみ深く待っていてくださった
私の歩みに合わせて
そして絶えず励ましてくれた
おまえの希望は決してなくならない、と

2004年6月16日
アマンダ・ディエッパ

絶望の瞬間

私の心の中には何が見える？
希望はなく　悲しみで満ちている
私の周りを見渡すと？
長い、長い憂鬱な明日ばかり

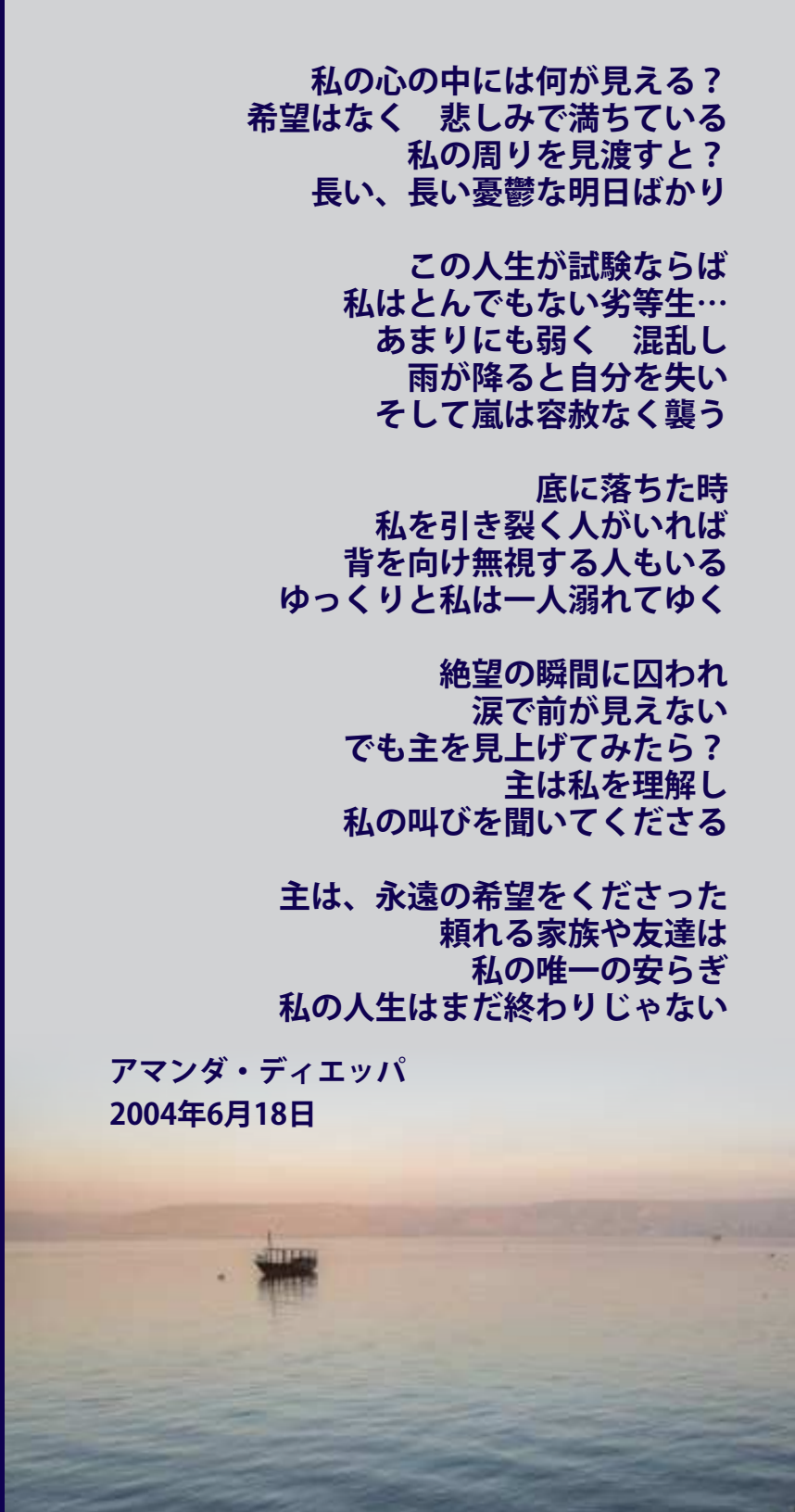
この人生が試験ならば
私はとんでもない劣等生…
あまりにも弱く　混乱し
雨が降ると自分を失い
そして嵐は容赦なく襲う

底に落ちた時
私を引き裂く人がいれば
背を向け無視する人もいる
ゆっくりと私は一人溺れてゆく

絶望の瞬間に囚われ
涙で前が見えない
でも主を見上げてみたら？
主は私を理解し
私の叫びを聞いてくださる

主は、永遠の希望をくださった
頼れる家族や友達は
私の唯一の安らぎ
私の人生はまだ終わりじゃない

アマンダ・ディエッパ
2004年6月18日



知らせの時

感謝します　感謝します　感謝します
この溢れるばかりの恵みに
その一つさえ受ける価値はないのに
主の愛を感じ、こんなに確信できる
愛され　愛され　愛される

ただ望むのは主の星になって輝くこと
主が私を見つめ　ほほ笑み　取り上げてくださること
子よ、お前は私のものだと

満たされて　満たされて　満たされて
喜びと精神とで
主の完璧な栄光を見る
そして懸命にそれを映したいと願う

平和であれ　平和であれ　平和であれ
主が全てを導いてくださることを知っている
私の魂を築き上げた主が
緻密に計画してくださった人生を歩む

待っている　待っている　待っている
主が約束を守ってくださることを
希望に導かれた
知らせの時が来ることを



2004年7月14日
アマンダ・ディエッパ

目を開かせてください

涙で目がくらむ
恐怖に目がくらむ
逃げ道がなく
檻の中に閉じ込められているようで
息を切らしているけれど
悲鳴を上げたり叫んだりするには弱すぎる

私の心と魂は
持てる力を奪われ
私の信仰はまるで尽き果てたよう
私は泣き叫ぶ 何度も何度も
「この杯を私から取り上げてください」と

時間はあっという間に経ち
月日は飛ぶように過ぎ去る
私が立ち止ったまま世界は動いていく
この檻から出してよ
この痛みをなくしてよ
不可解な御心に私の目を開かせてください

私は倒れては
立ち上がり
また打ちのめされる
この競争に負けて
気が狂いそうになっても
勝てる方法は本当にあるの？
信頼が薄れていく
希望がしぼんでいく
それをしっかりつかんでおこうと
がんばってはいるけれど

なぜよそよそしいのですか
なぜ黙っていらっしゃるのですか
これほどあなたを必要としている時に

あなたはこの魂を創造され
命を吹き込まれました
だからお尋ねするのです
苛立ち、怒って
悩んで、打ちひしがれているのに
他にどうしろというのですか

燃えあがる熱い心
揺るぎない信仰
あれほどまでに感化されていたのに
今、私は取り残され
空っぽのまま
隠れる場所はどこにもないのに

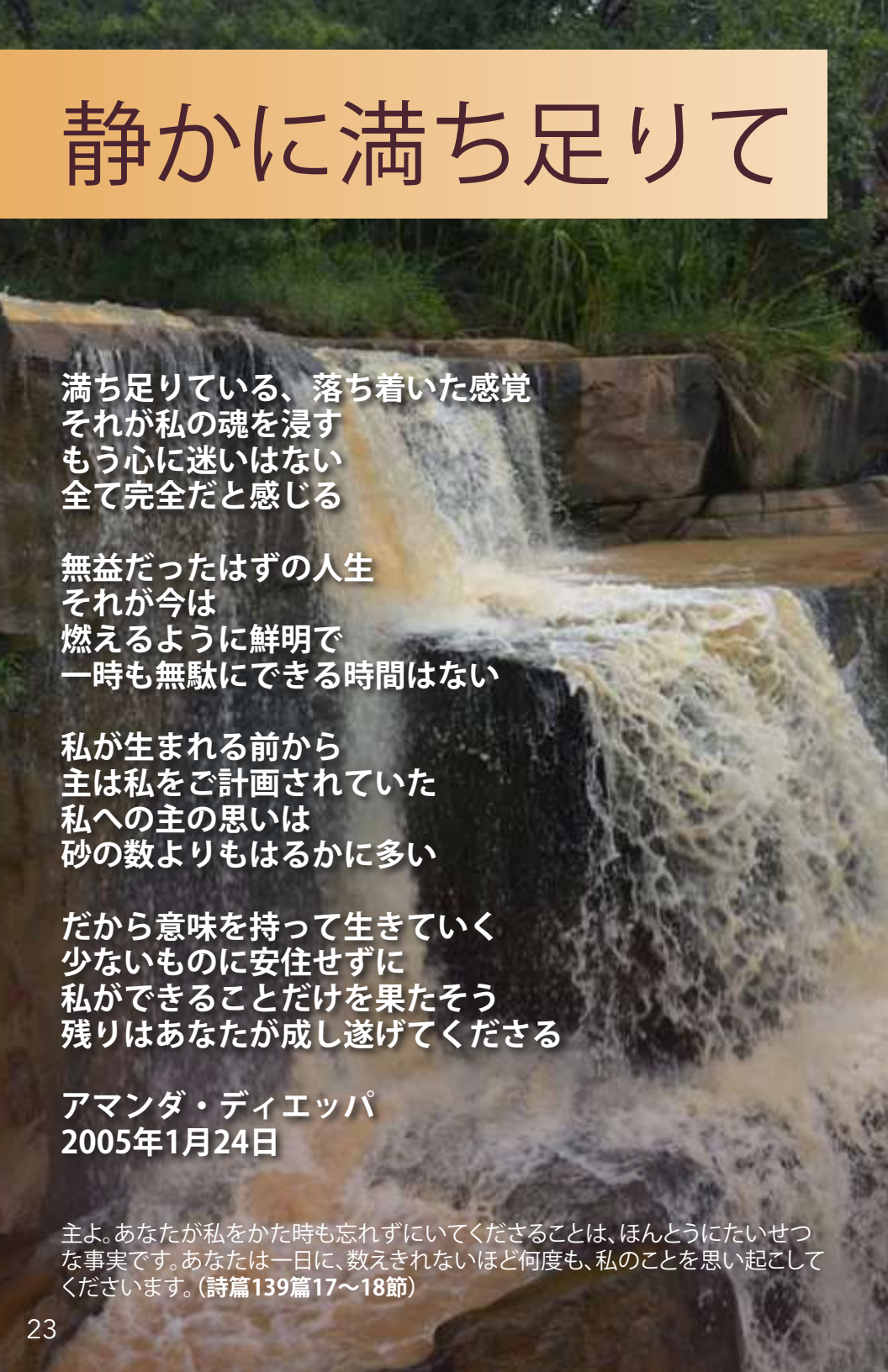
さあ始めてください
さあ始めてください
私の泣く声をお聞きになり
私の目を開らかせてください
あなたのご計画が
どのようなものであっても

アマンダ・ディエッパ
2004年12月27日



するとイエスは言われました。「わたしがこの世に来たのは、心の目の見えない人を見えるようにするため…」（**ヨハネによる福音書9章39節**）

静かに満ち足りて



満ち足りている、落ち着いた感覚
それが私の魂を浸す
もう心に迷いはない
全て完全だと感じる

無益だったはずの人生
それが今は
燃えるように鮮明で
一時も無駄にできる時間はない

私が生まれる前から
主は私をご計画されていた
私への主の思いは
砂の数よりもはるかに多い

だから意味を持って生きていく
少ないものに安住せずに
私ができることだけを果たそう
残りはあなたが成し遂げてくださる

アマンダ・ディエッパ
2005年1月24日

主よ。あなたが私をかた時も忘れずにいてくださることは、ほんとうにたいせつな事実です。あなたは一日に、数えきれないほど何度も、私のことを思い起こしてくださいます。**（詩篇139篇17～18節）**

一時の試練

来る試練　来る試練
様々な出来事に圧迫される
私は黙って耐える
襲い来る人生の試練に

来る日も　来る日も　もがきながら
何とかやってみようとするけれど
また一時の試練にぶつかる
「なぜ？」と聞く事もできないまま

くる季節　くる季節
気持ちが高ぶる日も落ち込んだ日でも
成功しても失敗しても
私の信仰は常に成長している

時おり
信仰がぬるま湯のようになる
そして嵐の中であなたに出会った時に
火は再び灯る

くる勝利　くる勝利
全てはあなたのおかげ
私が必要なもの全てをあなたは見つけ
そして満たしてくださった

2005年2月2日
アマンダ・ディエッパ

消えることのない希望



怖くて息もつけない
自分の心さえも感じられない
私の夢が
全て砕けていくのを目の前に

もう何年も戦ってきているじゃない
同じ戦いを
一番恐れていること　それは現実
たったひとつの答え　それは涙

イエス様の強さを前に
私の弱さが見えてしまう
全てがイエス様にかかっている中で
私にできることは何もない

私の心が弱っている時
信仰は動き出した
主の腕の中にいることを気づく
いつもそこにいたことに

全てを取り去り
来るべき死と向き合い
私の最後の息で
主は素晴らしいと言おう

私の人生は短く儚い
でも私の希望が消える事はない
たとえ何が起ころうとも
決して忘れない
栄光を帰すのは主であることを…

2005年2月7日
アマンダ・ディエッパ

永遠の重荷

主よ、教えてください
怖くて理由が聞けないのです
主よ、なぜこんなにも
痛みがあるのでしょうか
これほどに私が涙を流すものが

涙の染みが頬から消えません
今も空気を求めて喘いでいます
罠にかかり、永遠に重荷を負うような気分です
一人で背負うには重過ぎる

いくら努力をしても
いくらあなたがそこにおられると思っても
この重さに押しつぶされてしまう
絶望に身をゆだねてしまう

私の頭は言う「静まれ」と
でも傷つけられることに疲れた
心が大声で叫ぶ
勝てるわけがない、と

不安は近くにいるのに
希望はあまりに遠い
今の人生の重みの下で
怖くて祈ることもできない



計画はわかっているの
でもそれを最後まで生きるのが怖い
引き返したい
そして疑いに身を任せてしまいたい

主よ、信じる心をください
あなたを悲しませたくないのです
くじけることが恥ずかしい
ただ静かに溺れていくだけ

2005年2月25日
アマンダ・ディエッパ

重荷を主にゆだねなさい。主が背負ってくださいます。**(詩篇55篇22節)**

かけらを拾う

私の人生が目の前で光を放つ
見回すと
砕かれた私自身のかけらが
あたり一面を覆っている

それらを拾って
元に戻そうとするけれど
でもできなくて
空しさの中に横たわる

固かった筈の信仰が砕けてゆく
私の目の前で
偽ることもできない
ごまかせる痛みじゃない

岩のように固かったものが
ゆっくりと砕けていく
小さな　小さな小石になって
走る場所も残されていない

主よ、心の奥で私はあなたを感じています
でも魂は一人ぼっちなのです
この世の苦しみに
魂は嘆き、うめいています

かけらを拾ってください
私を生まれ変わらせてください
静まることを教えてください
あなたへの私の思いを映して

2005年2月28日
アマンダ・ディエッパ



かけらは置いて

これまでの人生があなたの頭をよぎる時
慰めを求めることはないのよ
全能なる神様とともに
私達がここにいるのだから
かけらはそのまま置いて
元に戻さないで
あなたと一緒に立ち向かうために
私がいつでもそこに行くことを信じて　ただ受話器を取って
空しさに身を横たえているのは私
何もできないことがあまりにも明らかだから
でもあなたの信仰の大きさは知っている
家族みんなを導いてきたあなた
あなたが達成したこと　それはわたしの誇りでもある
いつも勇気を持っていたことを
小石に過ぎないと思っているあなた
それなら私は何？
あなたの目の前の小さな埃
あなたが倒れそうな時　その小さな埃がかけつける
アマンダ、一人ぼっちだと思わないで
自分がなりたかったほど良い妹じゃない　それはわかっているの
でもこれだけは知って欲しい　あなたを深く、
深く愛していることを
そしてあなたのほどの強さがあれば
もっと良い助け手、良いクリスチャンでもあったでしょうに

2005年2月28日
ローラ・トゥエルマン



神さま？

息ができない
あえいで、ただ涙にくれる
あとどれだけ自分をだまし
恐怖と闘えばいいのだろう

少しずつ　少しずつ
人生が破綻していく
徐々に
ほつれる早さが早くなる

答えを見つけようとしても
難しくなっていくばかり
もう、すぐにも
完全な悲しみが訪れる

感謝なんかできない
私、泣いてばかりいる？
つい一カ月前まで
大丈夫だったのに

すぐ悪い方向に考える
私の人生はどこに向かおうとしているの？
確かに手に握っていたものがなくなる
わからないなんてもう嫌だ

サタンが巧妙に糸を織る
すばやく人生の綾を変えるために
不安と疑いを織り込んで
人生の戦いに負けたと思えてくる

もう自分ではどうしようもない
何とか自分の立場を守るのに懸命
主イエスキリストよ
どうかお助けください
全てがあまりにも間違っている

重荷はもう耐えきれないほどです
落胆に続く日々
忍耐をください
今の私はひ弱で
ほんの小さいことでも私は動揺して
逃げ出すのです

十字路で迷う
どっちに行ったらいいの？
分かれ道で動きが取れない
間違いを犯したくないから

私の肩にのしかかる
あまりにも重い荷
流砂に足が取られる
主よ、そこにいるのでしょうか？

あなたに重荷を渡します
全部引き取ってください
私には限界です
私は今にも倒れてしまいそうです

求めれば与えられると
教えられました
でもこんなに難しい試練だなんて
想像もできなかった

全部取り去ってください
目をつぶって待っていますから
私の祈りは届いていないのでしょうか？
人生は全くつじつまが合いません。

憂いもあなたにお渡しします
これ以上何をすればいいのですか？
何かしなくちゃいけないのはわかっている
だから聞いているのです…。

「このトンネルに
光はあるの？」
暗闇しか見えません
「わたしの苦しみをあなたに捧げれば
それが見出せますか？」

落胆など何でもない
説明できないこの気持ちに比べれば
私の内を燃やす
絶え間ない痛みに比べれば

これは多分私の心
あまりにも何度も引き裂かれた
姉にならって
詩の言葉で見つけ出そう

私は感じている
家族が平安を深く願っていることを
少しでも痛みを止めるために
毎日何かをしていることを

出るのは溜息ばかり
敗北を言葉にすることもできず
私はあなたの足元に身を投げ出す

主よ、あなたを信頼しています
あなたはあなたのなさることをご存知ですか
私達にもその答えを教えてください
この痛みへの答えが欲しいのです

何故私達なのですか？
何故今なのですか？
これ以上学ぶことがありますか？
天国には



神さまを疑ってはいません、ただ質問があるのです

私達のための答えがそこにあるのは
わかっています
信仰を貫けば
この苦悩を乗り越えられることを

でも信じる事は
難しいのです
だから勇気をください
あなたにだけ目を注げるように

信仰はからし種のようなもの
私にあるものもそれだけ
必要なのもそれだけ
ここまで携えて来たものもそれだけなのです

もっと持つ事ができれば
でも多く持っている時には
私の拳がそれをしっかりと
握りしめているのに
こぼれ落ちているように見える

前もあなたに叫んだことがありました
私の心を重くしていることについて
何故わたしは毎晩あなたの前で
泣いているのでしょう
暗闇の中　たった一人で

私は絶えず考えています
心の中で問い続けています
私は頭の中で戦い
そして神を疑うのです

理由がわからない
私の理解を超えてしまう
何故こんなことをなさるのですか
わたしたちにサーカスの輪を通らせようとするのですか

あなたは私達のために
ご計画をお持ちです
私の声が耳に届いているのはわかっています
あなたは私の叫びに答えてくださるから

でもそれをあえて聞きません
少なくとも今は
カードを引くのはあなた
私は次に来る札が怖いのです

私が密かに望んでいる
ことがあります
姉が
決して死なないことを

自分勝手な私の
密かな祈り
彼女へのあなたの目的が
今日果たされないことを

この世で姉を必要としていてください
それも長い、長い間
姉をあなたの世界に連れ去らないでください
わたしの世界に姉が必要なのです

そんなことがあったらどうしよう
もう彼女は終わりなのだとあなたが言ったら
私達から
あなたが彼女を取り上げるようなことが
あったら
そして「それで良い」と言ったら

時折こう思うことがあります
私の心の奥深くで
弱っている時に
ただ私を引き裂いてください　と

私の魂の奥深く
この自分勝手な思いよりも深いところで
失う恐れの裏に
決断ができないほどに

姉にこの世にとどまって欲しいと
強く願う私の想い以上に
主よ、私は望みますあなたが彼女
を天国に導
いてくださることを
彼女が安らかに過ごせることを

姉は今後
痛みも苦しみも受ける事はないのでしょう
でも新しい体を得る以前に
それが彼女の生まれて来た意味なのです

本当はそんな風に思っては
いけないのでしょう
あなたと一緒になり、自由になるこ
とを喜ば
なくてはいけないのでしょう
姉が最期の時に近づくことを
私には止める事はできません

私達はより良い事をすべく
生まれて来たのです
天国こそ私達がいるべき場所です
姉が行かなくてはならないのなら、
あきらめ
ましょう

渋々と

2005年2月28日
リサ・トゥエルマン

導きによって

2005年2月28日
父





痛みのない人生とは
どんなものだろう
皺やくすみのない
魂のみの体



繭の中にいる芋虫には
どうしてわかるのだろう
やがて蝶になることが
羽を広げるその恍惚の一瞬が



主には全てがわかっている
しかし恐れがわたしを盲目にし
神聖な新しい体の
美しさや栄光を見えなくする

私はこの世の私を差し出す
主の手によって造られ
私を待つものと引き換えに
それが私の運命だ

恐れる必要はない
絶望に泣きながら
神はいるのか
人生は試練に過ぎない　と

私は祈る、そして悩む
しかし成長を続ける
主よ、あなたに
あなたの光のぬくもりに
近くなるために

天国には何があるのか
心は騒ぐ
魂だけの体
それだけではない

真に信じる人は
本当の心の平安を見出す
死と病という
あらゆる恐れを克服し

人は皆いつか死ぬ
子供、女、男、誰もが
だから懸命に人生を生きる
主のお導きによって

あなたの掌

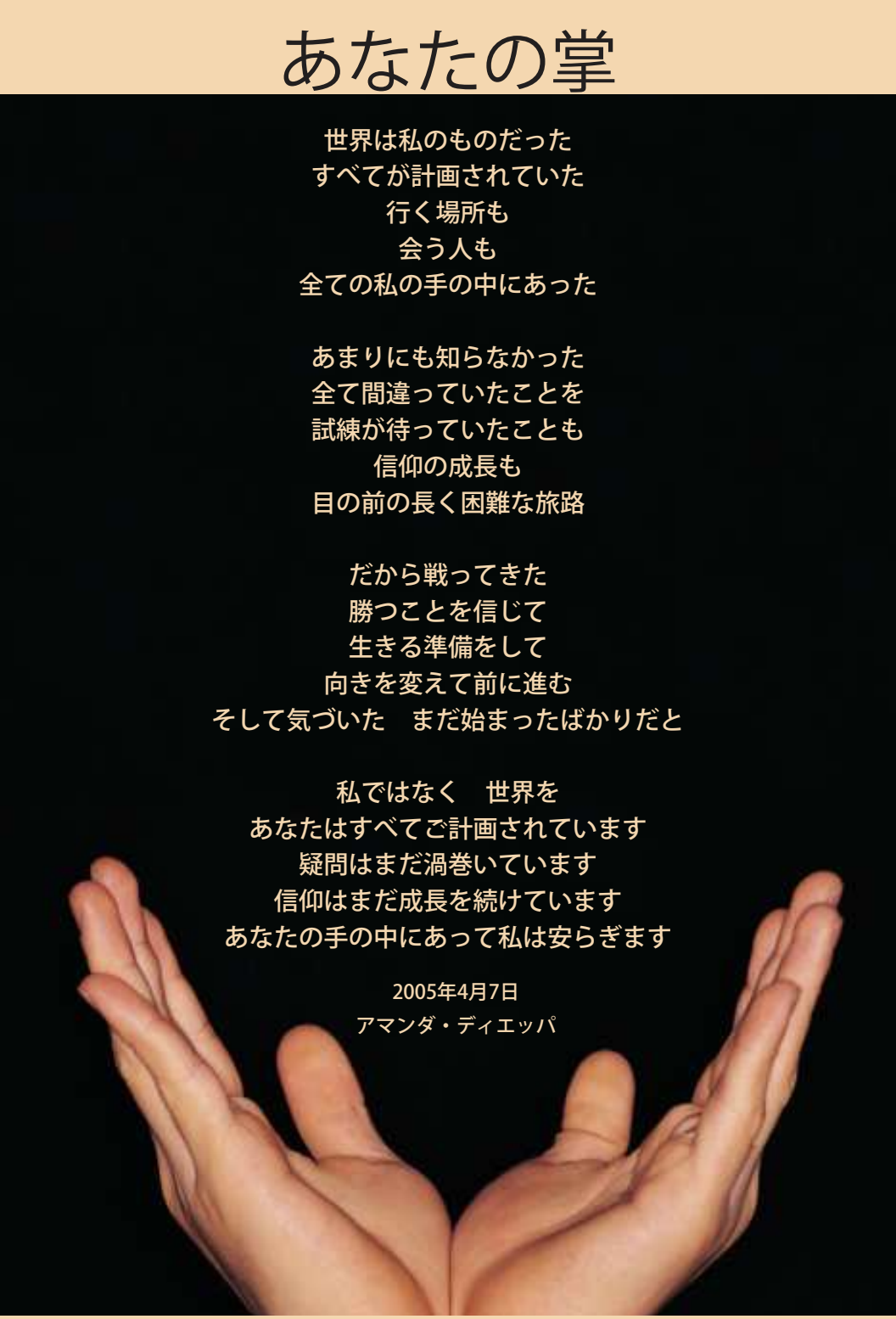
世界は私のものだった
すべてが計画されていた
行く場所も
会う人も
全ての私の手の中にあった

あまりにも知らなかった
全て間違っていたことを
試練が待っていたことも
信仰の成長も
目の前の長く困難な旅路

だから戦ってきた
勝つことを信じて
生きる準備をして
向きを変えて前に進む
そして気づいた　まだ始まったばかりだと

私ではなく　世界を
あなたはすべてご計画されています
疑問はまだ渦巻いています
信仰はまだ成長を続けています
あなたの手の中にあって私は安らぎます

2005年4月7日
アマンダ・ディエッパ



今はまだ

疑いません、あなたがすべてを掌握されていることは
それでも私の中で何かが燃えているのです
魂の中で
生きる意志が
もっと大きく
燃えあがって
衰えることを拒否するのです

あなたはそうしてしまわれるでしょうが、今はまだ
たくさんの夢もたくさんの後悔もあるのです
大切な毎日を
無駄にするつもりはなかったのです
自分の意志の行方を探して
さまよっているうちに

今、時は刻々と過ぎるばかり
具合がよくなるなら何でも差し上げます
ただ癒されるために
乞い、嘆願して
でも時々心配するのです
私の運命はもう決まっているのだと

どうかまだ私を連れて行かないでください、少なくとも今はまだ
私はこれほどまでに恵まれ、将来の予定も決まっているのです
私の若さが叫びます
心は熱い思いで燃えているのです…

でもどうかお待ちください
あなたの愛だけが私に必要なのです

アマンダ・ディエッパ
2005年4月20日



まだ待っているのです

なぜですか、主よ、なぜ
私はこんなに長々と懸命に戦うのですか？
ほんの少しだけ前に進み
それよりも大きく逆戻りするために

どこへですか、主よ、どこへ
私は走り去って安全に隠れられるのですか？
逃げるためだけに
私を煩わし続けるものから

いつですか、主よ、いつ
この悪夢は終わるのですか？
怖くてたまらないのです
決して遣わしてくださらない天使を待って

どうしてですか、主よ、どうして
あなたはこれほどたくさんの痛みを許されるのですか？
私が信仰をもって叫んでも
それがいつまでも続くことを

私は誰に頼るのですか？
あなたがそこにはいらっしゃらないと感じる時に
私は何をするのですか？
あなたが気にかけてもくださらないと感じる時に

私はまだその天使を待っているのです
でも疑う気持ちが
その日を夢見て喜んでいた心を
少しずつ削っていくのです

アマンダ・ディエッパ
2005年6月13日





姉妹の愛

愛してそして失う方が、一度も愛したことがないより良いのだろうか？
姉に残された可能性があまりにも小さいことがわかっていても、それを受け入れられるだろうか？
もうこれ以上姉に関わらずに、私の弱い心を守った方が簡単ではないのだろうか？
姉が息を引き取っても、私の魂が引き裂かれないように
でももうすでにわたしの心は姉さんにあまりにも近く、痛みは耐えられないほど
病と闘う姉を見ていてこれほどに心が痛むのなら、逝ってしまった姉を見たらどれほどだろう？
姉の病が最初にわかった時、私は近寄るのが怖くて逃げた
悲しみの致死量を薄めれば、自分は助かると思った
でも姉をもっと知ろうとしなければ、きっと後悔する、そう言われた
彼女がこの星で生きている尊い一瞬一瞬に、彼女を愛さなければ、と
私はそれを受け入れて、先立たれた人達の話に耳を傾けた
だから私も全てをかけて、もうこれ以上愛せないほどに姉を愛した
毎晩神に祈る　明日も姉に会えることを
神様が姉の命を救って　私を悲しませないことを
痛みの中にある姉を見て　自分の選んだ道を思い知る
弱いけれど恐れのない心で無条件に愛していく道を
振り返っても　自分の命をかけたことを後悔していない
あれほどに愛しさえしなければ　心が引き裂かれることもなかった
彼女を愛することがなければ　全てを捧げ与えることがなければ
彼女を全く知らない事がどれほどの損失かも想像する事もできないだろう

2005年6月19日
リサ・トゥエルマン

あきらめない



あきめないでほしい絶対に
生きることを
おまえを必要としている人があまりにも
多い
おまえの与えられるものが限りないから

人生は困難だ、それはわかっている
そして落ち込む日々もある
重荷が十分で
誰だって落ち込む日々が

おまえの横に立つ
主を今、見上げて
その言葉が
おまえを満たすよう祈るのだ

こういう戦いを前も戦ったね
恐れに立ち向かって
一度に一日ずつ生きて
そして何年もそれを続けた

耐えられないような
暗い考えが襲ったら
鎧を取って欲しい
武器を手に取ってほしい

お父さんが一緒だよ
すべての歩みで
そして勝利を味わってくれ
毎日に打ち勝つ中で

2005年6月20日
父



運命に導かれて

人生の意味とは何かと
聞いたことがあったね
なぜこの地球に
存在しているのかと
怒りにまかせて怒鳴っていては
私達の目的は見えてこない

ある人は言う
それは時だけが知る旅路なのだと
またある人は言う
運命は決まっているのだと
それが天国であろうが地獄であろうが

人生がうまく行かなくなった時
自分の周りで悪いことばかりが起こる時
キリストから背くか
それとも、固い地にしっかりと立つか

もう一方の頬を向けることが
簡単だとは誰も約束しなかった
人生の悪い部分に目を当てず
従順であろうとすることが

嫉妬や欲望が
私達の物欲を惑わす
他の人が持っている物を欲しがる
それもサタンの計画のひとつだ

だから人生に疲れ
これは試練なのかと不安になった時
ひたむきに信仰に頼ればいい
後は心配せずに

2005年6月23日
父

神なくしてがんを理解する

神さま、なぜこれが起こっているのですか？動くことができず、呼吸もできません。心は傷つき、ねじって絞られ、10のバラバラな方向に引っ張られているようです。見ることができません。涙で目を開けていられないのです。私はまばたきをして涙を払い、強くなろうとしているのです。でも神さま、私の内側はがたがたと崩れています。心は粉々になっているのです。私の一生が目の前であっという間に流れていきます。疑問で溺れそうです。神さま、私にはできません。これを繰り返すことなど。

私の人生はどうなるのですか？ 私は髪を伸ばし始めたばかりなのです、三年もかけて。お願いです、私からそれを取り上げないでください。私の計画はどうなるのですか？ サンディエゴに戻りたいのです。他の人たちのように学校に行きたいのです。三年で卒業することになっているのです。私が先生になって、感化するはずの子供たちはどうなるのですか？ 私の家族はどうなるのですか？お母さん。お父さん。妹たち。弟。私は強いお姉さんになるはずなのです。家族に再び同じことを経験させるなんて、私にはできません…。それなら一人でやるほうがいい。リサやローラが結婚するのを見たいのです。あの子たちの結婚式でブライズメイドになってあげたいのです。マイケルが高校を卒業するのを見たいのです。お母さんとお父さんが年をとったときに面倒をみてあげたいのです。その反対に私の面倒を見てもらうなんて…起こってはならないことなのです。

神さま、私はまだ溺れていて…もっとひどくなって…悪夢の中にいます。これは私の生き方ではありません。これは私の体ではありません。新しい体が欲しいのです、これは壊れているのですから。これは私を裏切ったのですから。

神さま、もう待てません。待つことが私をくたくたにしています。それはじりじりと悪意を持って、私を蝕んでいるのです。神さま、もう手術を受けたくありません、私の体をまた切り開かせないでください。もう傷跡はいりません、主よ、傷跡のあるそんな私を誰が愛してくれるのでしょうか？ 神さま、もう私を傷つけさせないでください、もう具合を悪くさせないでください。どうか私に点滴を与えるのをやめるように言ってください、針を刺したり突いたりするのをやめるように言ってください、私にまた抗がん剤を使う話をしないように言ってください。父なる神さま、またあれをするなんて私にはできません。二度とやりたくない。できません。私の中に毒を入れさせないでください。毎日吐いたり、具合が悪くなって寝込んだり、両親が私のうめき声を聞きつけて洗面器を洗い流しに駆けつけなければならない時の顔を見たりするのは嫌なのです。床の上で丸まって寝なければならないなんて、もう耐えられないのです。私は自分のベッドが好きなんですから。今の自分の生活が好きなんですから。どうか私からすべてを取り去らないでください。今はまだやめてください。

私の将来はどうなるのですか？ 神さま、私のソウルメイトはどうなるのですか？私を愛してくれるでしょうか、病気で臥せっている時も。私を美しいと思ってくれるでしょうか、髪の毛がなくなって青白く病んだ体でいる時も。彼はまだ私の茶色の目を覗き込みたいと思うでしょうか、暗く沈んで涙でいっぱいになっているときも。私のそばにいてくれるでしょうか？逃げてしまうでしょうか？ 神さま、いつか私が築きたいと思っている家庭はどうなるのですか？ 私が欲しいと思っている子供たちはどうなるのですか？ 幼いヘイリーとエヴァン。神さま、毎日その子たちのお弁当を作り、持たせるナプキンに「I love you」と書く時がいつか来ますか？ 私の青春はどうなるのですか？ 楽しめますか？満喫できますか？ まだサーフィンをしていないビーチの数々、まだ泊りがけで登っていない山々、まだ出会っていない友達、まだ見せてはいない笑顔、私がまだ感化していない人たちの人生はどうなるのですか、神さま？ 主よ、なぜ私なのですか？ 神さま、私にはできません、孤独を感じ、落胆し、挫折し、失望するばかりです。どうか私をお助けください。

神とともにがんを経験する

主よ、あなたはなんと素晴らしいお方なのでしょう。あなたの愛に魅せられ、私は動くことも呼吸することもできません。私の心は耐え難い苦しみにありましたが、あなたがその恐怖から私を救ってくださいました。私の心は満たされ、高揚した気持ちを抑えることができません…。神さま、喜びはあちこちへあふれ出し、勇気を湧き立たせています。私の人生におけるあなたの素晴らしいご臨在が心を浮き立たせます。いろいろな意味で私はまだ盲目のままです、主よ、なぜならあなたの光で目がくらんでいるからです！神さま、そんな今、どうして恐れてなどいられるでしょう？どうして理由を尋ねることができるでしょう？どうしてあなたを疑うことができるでしょう？一度は力尽き、溺れかけていた私。でも今はあなたとともに、あなたを通して、あなたのおかげで、すべてを行うことができます！あなたが私の重荷を負ってくださったのですから、私は一人でそれをしなくてもいいのです…そうすることは不可能なのです。私の主イエスが変わらず忠実でいてくださるということを知るだけで、想像もできなかった希望が湧いてきます。私はとても恵まれています、何かを受け取る資格などまったくないというのに。私は、主イエスさまと、あなたが私のために立ててくださったご計画と、私への御心と、私へお与えになる未来と…お与えくださった賜物に望みを託します。神さま、なぜ私なのですか？なぜ私の人生をあなたの有り余るほどの善良さ、愛、そして憐れみで祝福してくださったのですか？なぜ私に御身を明かされ、あなたにひざまずく機会を与えてくださったのですか？なぜ長い間あなたの素晴らしいご計画や聖なる目的が分からずにいた私を、見る力で祝福してくださったのですか？充実した人生が見えずにいた私を。神さま、あなたを賛えることを私は決してやめません…真っ暗でどん底にある時にも、御名を賛え、私への素晴らしい愛に微笑みます。うれしくてたまりません！私はまるで新しい人になったようです。イエス・キリストは、私が予想もしていなかった方法で、そして決して理解できなかったであろう方法で、私の人生を変えてくださいました。神よ、あなたはとても慈悲深いお方です！あなたはあふれる愛で私を祝福してくださいました…これはもう何度も使っている言葉ですが、今の私をこれ以上うまく説明できる言葉は他にありません！私は神に仕える喜び、安らぎ、愛、敬虔さ、そして熱意にあふれています。ぱっと花開くこの気持ちを皆に知って感じてほしいと思うのです。それはこれまでで一番素晴らしくて美しいもので、誰もがそれを体験する機会を得るべきだから。神さま、あなたはどのようにして、私のようにすっかり壊れ、混乱し、道に迷ってしまった子を、あなたの愛と憐れみのお言葉に内から燃える、謙虚で熱心なイエス・キリストの信者へと変えてくださったのですか？私は自分が盲目であることすら知りませんでした。こんなに長い間チャンスを逃していたことすら知りませんでした。自分が自己防衛のためのさして役に立たない殻を持っていることすら知りませんでした。そして私は、イエスさまに自身をゆだねることがどれほど解放的で感動的なことかを、完全には理解してはいませんでした。私の中のすべてを滅ぼし、すべてをゆだねることで、私の心が満たされ、絶対的で否定できない「人生」が私に与えられることを。救い主イエスさまがそばに一緒にいてくださるならば、私は恐れませんし、私の愛、信仰、献身を疑いもしません…私から何が取り上げられようとも。これを言うのは初めてではありませんが、今は前よりももっと納得できています。私の愛も、私の健康も、私の人生も、取り上げてくださってかまいません。それでも私は主イエス・キリストを讃えることを決してやめません。私が天のお父さまについて口にする賛美を黙らせることなど何ものにもできません、どれほどの恐れ、暗闇、孤独、挫折があっても。むしろ、私はもっと神さまを称賛するだけ。私の心と魂のすべてを、あなたの御言葉と私に与えてくださった目的に注ぎ込むだけなのです。失うものは何もなく、得るものだけがあるのですから。

私が正直に、そして喜んでこう宣言できることに感謝して、父なる神を賛美しましょう。
「生きることは、キリストのために良い機会を得たことを意味し、死ぬことは、さらにすばらしいことを意味する。」

（ピリピ人への手紙1章21節）

家族のみんなが好きな聖書の一節

お母さん：
主が味方だから、恐れてはならない。主はいつも先頭に立ち、途中で見放すことも見捨てることもなさらないのだ。
（申命記31章8節）

お父さん：
私たちは、神を愛し神のご計画のうちを歩んでいる人のためには、その身に起こることは すべて、神が益としてくださることを知っているのです。
（ローマの信徒への手紙8章28節）

ローラ：
だがわたしを頼りとし、わたしを望みとする者は、祝福される。彼は川の土手に沿って植えられた 木のように、深く張った根で川から直接水分を吸収するので、暑さにもしおれず、長いかんばつでも 弱らない。葉はいつも青々と茂り、みずみずしくおいしい実をつける。 **（エレミヤ書17章7～8節）**

ですから、私たちは決して落胆しません。肉体はしだいに衰えますが、うちにある力は日ごとに強く なっていきます。今の私たちの苦しみや悩みは、結局のところ、取るに足りないものであり、それほど 長くは続きません。そして、このつかの間の苦しみは、永遠に尽きない、あふれるばかりの神の祝福を もたらすのです。ですから私たちは、いま見えるもの、すなわち身の回りの苦しみには目をとめません。むしろ、今は見えない天にある喜びを望み見ているのです。苦しみは、やがて消え去ります。しかし、その喜びは永遠に続くのです。
（コリント人への手紙第二4章16～18節）

リサ：
だれかが幸せで喜んでいる時には、いっしょに喜んであげなさい。悲しんでいる人がいたら、いっしょに悲しんであげなさい。互いに心を一つにし、楽しく働きなさい。高ぶってはいけません。偉い人に取り入ろうとせず、かえって、身分の低い人々と喜んで交際しなさい。何でも知っている などと思い上がってはいけません。
（ローマの信徒への手紙12章15～16節）

何よりも、互いに熱心に愛し合いなさい。愛は、多くの欠けた点を補うからです。食べる物に 困り、宿のない人がいたら、気持ちよく家に迎え入れてあげなさい。神はあなたがた一人一人 に賜物を与えておられます。それぞれに与えられた賜物によって、互いに助け合い、神からの あふれる恵みを他の人と分かち合いなさい。
（ペテロの手紙第一4章8～10節）

マイケル：
実際に見ることによってではなく、信じることによって、これを事実と認めているのです。
（コリント人への手紙第二5章7節）



イエス・キリストの愛は
すべての人に向けられている

自分が書いた詩を本にして人々に贈り、自分が信仰から得た強さを人々に知ってもらうことは、アマンダの願いであり、遺言でした。

アマンダが書いた「神なくしてがんを理解する」と「神とともにがんを経験する」からは、彼女がなぜイエス・キリストを信じる道を選んだかが分かります。彼女はもはや自分があと何回息をするかではなく、息を引き取った後どこへ行くのかに焦点を合わせていました。

次項は、アマンダの信仰への旅に心を動かされた人々を励ますための案内です。アマンダを力づけ、これらの素晴らしい詩を書くために彼女の手を動かしたのと同じパワーは、あなたにも希望、勇気、そして安らぎを与えてくれることでしょう。イエス・キリストを知り、人知を超えた愛の力と強さを手に入れるようにアマンダがあなたの心をかき立てたなら、静かな黙想のひと時に、私たちが求めたり想像したりする以上の、計り知れないほどのことがお出来になる唯一の方に、あなたが人生を捧げられることをお祈りします。

実に神は、ひとり子をさえ惜しまず与えるほどに、この世界を愛してくださいました。それは、神の御子を信じる者が、だれ一人滅びず、永遠のいのちを得るためです。

（ヨハネの福音書3章16節）

「主」がまた戻ってらっしゃると人々に思い出させなさい
道を準備しなさい、王を迎えるために！

救いの祈り

主であり救い主であられるイエス・キリストと新たな人生を始めるための第一歩として、信じる気持ちを言葉にした、次のお祈りを唱えると良いでしょう。

天のお父さま
私の罪によってあなたとの間が引き離されてしてしまったことを知っています。どうか私をおゆるしください。心より悔い、過去の罪から離れてあなたに従います。神の御子であるイエスさまが私の罪のために十字架の上で死んでくださったこと、そして死からよみがえられ、今も生きておられ、私の祈りを聞いてくださっていることを信じます。イエスを心の中にお招きし、私個人の主、救い主となってくださるようお願いします。どうか、聖霊をお授けください。私があなたにお従いできるように、そしてあなたが私に向けられる偉大なる愛とあなたへの理解を深め成長することができるように助けてくださいますように。あなたが私のためにそう意図された人となれますようにどうかお助けください。これからの人生を、あなたを見習い、御心に従って歩み続けられますようお助けください。イエス・キリストの尊い聖なる御名によってこれをお祈りします。アーメン。

この祈りを唱えたなら、これからもスピリチャルな成長を続け、信仰を強めていくことが大切です。その出発点として、まずはマルコによる福音書またはヨハネによる福音書を読むことをおすすめします。理解を深めるためには、教会に通い始めたり、少人数での聖書研究に参加したりすることも役に立ちます。ご質問がおありの方、あるいは単に誰かと話がしたいと思われる方は、メールを送ってくだされればできる限りお手伝いさせていただきます。私の連絡先は『アマンダの詩集』の裏表紙に掲載されています。
お名前をお教えいただければ、あなたのためにお祈りすることもできます。

神を愛し、隣人を愛する

ひとつの神
ひとつの民



愛しき思い出とともに
アマンダ・ミッシェル・ディエッパ（Twellman）
1982年6月10日 – 2005年7月19日

この詩集は、福島第一原発事故直後に、事故の被害者の方々への応援の気持ちを込めて翻訳されたものです。この悲劇の被害を受け癒しと永遠の希望を切望される日本人の方々への贈り物として無料として提供されています。

以下の言語版による他の詩集もあります：英語、スペイン語、中国語、日本語、韓国語、ベトナム語、ヘブライ語、ロシア語、アラビア語、ヒンディー語、テルグ語。Tom Twellman（メール宛先：allmo108724@gmail.com）までお問合せください。www.amandaspoems.comからのダウンロードも可能です。
(949) 923-1047

© Copyright 2005, 2015, 2019, 2020, 2021, 2022

JAPANESE VERSION